

かえで支隊防災通信

創刊号
発行
かえで支隊
情報・広報班

かえで支隊防災通信発刊に当たって

「日本は地震の活動期に入った」と多くの専門家が警鐘を鳴らしています。専門家の一人は大正12年(1923年)関東大震災後、地上では大戦で壊滅状態の東京も地底では「地震活動静穏期」に入り、幸い経済を中心に大発展を遂げたが、再び地震活動期に入り、20世紀末から21世紀初め頃には今まで経験した以上の首都圏直下型の地震が起こると、既に昭和69年の著書で述べています。

小川自治会も昨年から自主防災隊の発足に伴い、より緊密な活動が行えるように公園を中心とした支隊を設立しました。当かえで支隊もその一つです。

明日起きるか、数十年後起きるか分からない大地震に対する日頃から備えが大切です。

昭和15年頃から唄われた「隣組」という歌があります。そうです皆さんご存知の「とんとんとんからの隣組・・・」という歌です。唄の後半に「回して頂戴回覧版、知らせられたり、知らせたり」とか「地震や雷、火事どろぼう、互いに役立つ用心棒、助けられたり、助けたり」

そうです。地震などの情報を知らせたり、知らせられたりし、元気で手の空いている方は助けたり、困っている方は助けられたりの関係が大切と思います。

情報のつなぎ役の一つとして「かえで支隊防災通信」を発行することに成りました。皆様からの情報・ご意見をお待ちしております。 かえで支隊長代表 甲斐 種千代

消火器に関するアンケート

大地震が起きた時、身体の安全を確保し、火災を発見したら火を消す事が優先されます。それも初期消火(出火して2~3分以内火災が天井に届くまで)が勝負です。初期消火には身近にある消火器が最も有効です。

かえで支隊では消火器に関するアンケートと共にご希望の方に消火器の斡旋。期限切れの消火器の回収を計画し、実施致しました。

現在集計中です。近々集計が終わりましたら消火器購入等ご希望の方には消火器の購入、廃棄に関する詳細をお知らせいたします。

大地震の備えは大丈夫ですか

万一大地震が起きたらと、食糧、水等の備蓄。第一次、二次非常持ち出し、家具の転倒防止など考えると限がありません。建物の耐震診断、耐震化工事となると一度には出来ません。しかし大地震は何時かは起きます。重要な物から毎年少しづつ防災関係へ予算を計上することも大切と思います。

○非常食：7日分、水(1日1人3L)7日分、○常備薬は余裕を持って
など詳細については順次お知らせいたします。

大地震が起きたら

先ず机の下などに隠れ身体の安全を確保し、火災を発見したら初期消火を最優先します。それから人命救助、水を貯める。屋内でも靴を履く、家を離れる時はブレーカーを落す。等など色々ありますが、詳細については順次お知らせいたします。